

厚真市街地の一角にたたずむ厚真町まちなか交流館しゃべーる。昼食時は、軽食目当ての社員が訪れ、室内の一角にあるバス待合所では、高齢者が乗車時間までくつろいでいます。居心地のいい場所の提供を心掛ける深澤館長に話を聞きました。



厚真町まちなか交流館しゃべーる 館長

Vol.21 ふかざわ としひろ 深澤 稔宏さん(47歳)

居心地のいい場所を提供

食や物販もありますから収益を上げなければなりません。それに、皆さんに親しまれる場所の提供を意識しています」と深澤さんは語りました。

昼食時には、厨房に立ちます。漁師の実家から取り寄せた昆布でだしを取り、町内の野菜を使ってカレーやそば、うどん、パスタなどを調理します。自ら育てた野菜を使うこともあります。「食品口スを出さないように、天気予報を見ながら数日単位で食材を調達するのが大変かな」と笑顔の裏に苦労が見えました。

室内には、複数の時計があり、すぐに時間が分かるよう工夫しています。特にデマンドバス「めぐるくん」利用者への配慮で、あらかじめ聞いたバスの到着時間まで、室内でくつろいでもらうためです。「間もなく到着しますよ」の声掛けが日課になりました。「触れ合いを大切にしながら、心安らぐ場所を提供したいと思っています」

浦河町出身で、7年前に妻の実家がある厚真町に引っ越しました。高校を卒業後に調理師の世界に進み、千歳市内のホテルでは副料理長も務め、和・洋・中どんな料理もこなします。「通勤せずに、厚真町で調理師の資格を生かせないだろうか」と転職を考えていた平成27年、オープンする交流館の職員募集を知って応募。豆腐製造の職業指導員として採用され、翌年から館長になりました。「来客と

接することがほとんどない厨房という裏方から、館長という表舞台の仕事に就いたことで、社交性が芽生えました。親しみやすい施設を意識して、これまでの利用者への声かけも「いらっしゃいませ」から「こんにちは」に変えました。バスの待合所を利用していた高齢者の「買い物も食事もしないから、『いらっしゃいませ』って言われてもね…」という声がかきつけかけました。「飲

あなたにとっての
愛すべき厚真を投稿してください



フェイスブック
@atsumatownhokkaido



インスタグラム
atsumalovers

ハッシュタグ#atsumaloversをつけてフェイスブックまたはインスタグラムに投稿してください。

ATSUMA LOVERS